

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年4月3日
研究・研修課題名	一般社団法人日本造血細胞移植学会主催 2019年度同種血液細胞移植後フォローアップのための看護師研修会
研究・研修組織名(所属)	看護部/C病棟8階
研究・研修責任者名(所属)	大国 美紀(看護部/C病棟8階)
研究・研修実施者名(所属)	田中 美喜(看護部/C病棟8階) 曾田 亜希子(C病棟8階)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	曾田 亜紀子 田中 美喜(看護部/C病棟8階)
学会名(会期・場所)、認定名等	一般社団法人 日本造血細胞移植学会
演題名・認証交付元等	なし
取得日・認定期間等	2019年6月29日取得
診療報酬加算の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 加算有(造血幹細胞移植後患者指導管理料) <input type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

造血幹細胞移植患者は、移植後長期にわたって免疫抑制状態が持続し、感染のハイリスク状態である。また、移植片対宿主病(GVHD)、臓器障害、不妊症、二次がんなどの様々な合併症により、日常生活や就学・就業復帰が困難になることもしばしばである。

現在、造血幹細胞移植患者に対して、セルフケア能力の向上・維持・副作用の早期発見・治療、医療・福祉サービスの利用支援、精神的サポートなどを目的として、専門医・認定看護師・専門薬剤師などによる移植後患者長期フォローアップ(LTFU)外来が実施されており、骨髄バンクや臍帯血バンクを利用した同種移植を実施する施設はLTFU外来の開設が必須となっている。

当院もLTFU外来を2017年度より開設しているが、専任看護師は先端がん治療センター病棟(C病棟8階)に勤務する看護師が従事している。LTFU外来に従事するためには同種移植患者の看護経験があることと、日本造血細胞移植学会が主催する看護師研修会に参加し、終了書を受領することが必須となっている。

現在、LTFU外来を実施している当病棟看護師が2019年8月から休職となることに伴い、LTFU外来を実施できる人員が不在となったため、引き続きLTFU外来を維持できるよう、2019年度に開催される研修への参加費用を申請する。

② 方法

同種移植患者に対する十分な看護師経験のある当病棟の看護師2名が、2019年6月27日から29日までの3日間、国立がん研究センター研究所、AP新橋(いずれも東京都)において開催される研修会に参加し、LTFU外来を実施するための知識・資格を習得する。

③ 成果

LTFU外来を実施する上で必要な知識や技術を以下のように学んだ

- ・ 退院後の生活指導
- ・ 造血細胞移植後感染症の診断とマネジメント
- ・ 造血細胞移植後非感染性晩期合併症のスクリーニングと予防
- ・ 移植後経過における倫理的課題

- ・同種造血細胞移植の現状と最近のトピックス
- ・同種造血細胞移植におけるチーム医療
- ・GVHDの診断とマネジメント
- ・GVHDのアセスメントと看護ケア
- ・小児特有の課題
- ・ライフサイクルと発達課題
- ・セルフケアへの支援
- ・移植後外来フォローアップの実際
- ・症例検討・ロールプレイ

本研修参加により移植後合併症の基礎知識、移植後のフォローアップにおいて必要な知識と技術を習得し、LTFU 外来担当看護師として医師とともに外来フォローアップにかかわっている。

LTFU 外来を実施すると「造血幹細胞移植後患者管理料」300点 が加算可能である。8月からの LTFU 外来への介入にて58件(2月まで)であり12300点算定できた。